

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表) 2024年度

公表:令和 7年 4月 30日

事業所名 YCCこども教育研究所そよそよ

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			室内の換気や空気清浄機を導入しており、人と人とのスペースの確保に努めている。
	2	職員の配置数は適切である	○			保育士・臨床心理士・公認心理師の職員が多い
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			入り口から廊下、訓練室までフラットな使用にしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			支援目標に即して常に振り返りを行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			毎年実施して改善を試みている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			HPにて掲載している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	予算の問題で第3者評価を利用するに至っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			年10回の事業所内職員研修を実施している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			定期的に調査票を配布して情報を収集している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			年1回保護者によるアセスメント、年2回のスタッフによるアセスメントを行っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			毎回検討している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			毎回、利用者に応じた活動となるように工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			学校休業日の活動に運動を多く取り入れるなどの工夫をしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			個別と集団を意識して活動を分けている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			毎回行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			毎回行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			役割分担して記録に努めている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			半年に一度、必ず行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			特に家庭支援を充実を図っている。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			担当指導員の会議参加を促している。

関係機関 や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校連携を行っているケースもあるが、行っていないケースもある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		今年度は医療的ケア等の子どもの利用がなかったが、主に神経発達症の子どもと主治医との連携は行っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		ケースによっては情報共有している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		ケースによっては、自立支援事業所との連携を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		近隣の支援学校と連携して、利用者の情報を共有し、相談、助言、研修などを行っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		ケースによっては情報共有している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		地域の事業所連絡会に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		活動終了後や連絡帳、記録などを用いて共通理解が持てるように努めている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		職場として、ペアトレを実施している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		変更があった際は文章で告知している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		今後、より一層の家庭支援の充実に努めていきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		ニーズがあった利用者に対して保護者会を開催したが、集まる日が合わずに個別の説明会になった。今後も工夫していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		ニーズがあった利用者に保護者会を開催したが、集まる日が合わずに個別の説明会になった。今後も工夫していきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会報などは作成していないが、活動予定表は配布している。
	35	個人情報に十分注意している	○		保護者に確認をとるように徹底している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		必要に応じた配慮を行っている。
非常時	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		近隣大学の学生に実習の場を提供している。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		研修等を定期的に行っているが、コロナ感染などによりできる限りの訓練を行っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		職員対象として実施しており、今年度速やかな非難が行えた実績があった。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待にあたるものについて、職員間で定期的に確認している。

等 の 対 応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			身体拘束の条件を踏まえて、個別支援計画書に付記して、説明を行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			お菓子の提供のために、事前に確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			危険だと考えられる事案は、ヒヤリハットを記入して、職員間で話し合っている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。